学校紹介 my school

白石市立 白川中学校

概要

本校は白石市の北東端にあり、山々に囲まれた起伏の多い地域で、北側を東西に流れる白石川が蔵王町、大河原町の町境となっている。白石川に沿って学区北部を東北本線が走り、本校は北白川駅から徒歩10分ほどである。国道113号線と国道4号線を結ぶ県道109号線が学区中央を南北に通り、朝夕の通勤時の交通量は非常に多い。

生徒数は昭和30年代後半には250人を超えていたが、ここ数年は50人台まで減少している。

所在地　白石市白川津田字田中前1-2
電　話　27-2102
ＦＡＸ　27-2185
校　長　佐　藤　文　則
生徒数　53名　　学級数　3学級

校章の由来（昭和28年8月26日制定）

「中」は中学校と論語の中庸の意味を持つ。周囲の竹の葉は、白川の竹にちなんで「活力」と「生き方」を表している。また，「中」の左右のスズランは、「清楚な姿」と「華麗な愛情」を表している。

教育目標

白川中学校生徒としての誇りを持ち、主体性・創造性を培うとともに心身ともに健康で、人間性豊かな生徒を育成する。

目指す生徒像

「進取」　進んで学び、自己の伸長に努める生徒
「敬愛」　思いやりの心をもち、生活を豊かにする生徒
「活力」　心身ともにたくましく、未来を創造する生徒

特色ある教育活動
（地域に根ざした活動）

すずらんタイム（総合的な学習の時間）の実践の一例

地域の美化活動

学校周辺や北白川駅舎の清掃活動を全校生徒で行い、地域の一員としての自覚が生まれています。

地域の行事への参加

地区敬老会で南中ソーランを踊り、お年寄りに盛大な拍手をもらいました。また、手作りの孫の手贈呈も喜ばれています。

伝統の巣箱製作と巣箱かけ

愛鳥活動は白川中の伝統になっています。2年生全員が巣箱を作り、地域の山にそれをかけて野鳥や自然を愛する心を育みます。

白石市とオーストラリア・ハーストビル市が姉妹都市の盟約を締結して10周年。
今年も市内の中学2年生男女8名が、7月29日から11日間の日程で同地を訪問して、国際理解と交流を深めました。今月号では、生徒と引率の先生の感想文を紹介します。

「最高のハッピーバースデー」

南中学校２年　道山　梢恵さん

私は、オーストラリアへ出発する前からホストファミリーとうまくコミュニケーションがとれるだろうか？という不安と、これからどんな生活が待っているのだろうか、という期待で胸がいっぱいでした。そのせいか、成田空港からの9時間という長いフライトの時間もあっという間に過ぎ、オーストラリアに着きました。

まず、私が一番最初に思ったことは、何もかもが美しいということでした。街や海、そして空気も目に光る物全てが美しいと感じたのです。このようなことを感じて、やっと今、私はオーストラリアにいるんだなーと実感しました。

ホストファミリーとの生活では、プールが自宅にあったり、靴をはいたまま、家の中で過ごすなど初日から日本との違いに驚かされました。しかし、ホストファミリーは、私たちを暖かく迎えてくれ、優しく接してくれました。

また、家族が通っているデーンベンク女子校という学校に一緒に通いました。日本人だから、という考えもなく誰もが私たちに「こんにちは」とあいさつをしてくれました。授業を一緒に受けたことによって日本の友達もでき、とてもいい交流ができました。

けれど、オーストラリアで過ごして、一番心に残っているのは水の大切さです。オーストラリアは、あまり雨が降らず昔から水不足が一番の悩みだったそうです。なので水はどこに行っても大切に、無駄なく使われていました。例えば、ホストファミリーの家でも、「シャワーの水は大切だから5分以内にしてね。」と言われたり、食器も、水をあまり使わずに洗う工夫もしてあり、改めて日本は水に恵まれた国であり、それがいかに私の生活を豊かなものにしているかを感じました。もっともっと私たちは日常生活の中で水を大切にしなければとも思いました。

二つ目は、私の誕生日だった8月7日にシドニー空港までホストファミリーがケーキを持って来てくれたことです。しかも、ハッピーバースデーの歌まで歌ってくれたり、あと空港の人がこのことを知り搭乗券にまでハッピーバースデーと書いてくれたのです。その時は、言葉に表せられないくらい、うれしくてたまりませんでした。オーストラリアで、みんなから祝ってもらい14才を迎えられるなんて、なんて幸せなんだろう。と思いました。私は姉妹都市交流を通して、日本とオーストラリアの文化や習慣の違いを体験でき、日本の良さを改めて感じることができました。そしてかけがえのない一生忘れられない思い出をつくることができました。

最後に、このような機会を私に与えてくださった市役所の方、先生方、友人、家族そしてともに楽しい時間を過ごした7人の仲間にも感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

「ハーストビル市訪問を終えて」

小原中学校教諭　高橋　智子

7月29日に日本を出発して翌30日、シドニー空港に着きました。これから始まる10日間に、「今の気分は？」と尋ねると、8人の生徒は少しそわそわしながら「わくわくしています」と答えていました。シドニーの美しい景色に目を奪われた市内観光を終え、夕方ハーストビル市役所に着くころはさすがに疲れた表情で、これから始まるホームステイ、大丈夫だろうかと実はちょっと心配でした。しかし、その心配はまったく無用でした。皆ホストファミリーの方々に大変良くしていただいたようで、3日後、生徒が体験入学している学校を訪問したとき、彼らの表情は皆いきいきとして「楽しい！！」と話してくれました。それは私も同じことで、引率の教師というよりはその家の娘（しかもわがままな）のように過ごさせていただき、真のホスピタリティーというものを教えていただきました。

また、生徒が体験入学している学校を訪問させていただいたときは、日本語で話しかけてくる生徒もいました。またある学校では、6月に白石市を訪問した生徒が日本語で校舎を案内してくれたのです。その輝いた瞳に、一教師として、言語教育のあり方を考えさせられました。

後半のバス旅行ではオーストラリアの自然の雄大さに感激し、首都キャンベラでは日本の歴史を改めて振り返り、どの活動も皆新鮮な感動を与えてくれました。

そんな10日間を終え、帰りの飛行機に乗る前に、また8人の生徒に今の気持ちを尋ねてみると、10日前より自信にあふれた瞳で異口同音に答えていました。「I'll be back here!」（またオーストラリアを訪ねたい！）と。

このような貴重な体験をする機会を与えていただき、心から感謝しています。この体験をもとに、さらに交流の輪が広がっていくことを願っています。